

おいしいみかんのパートナー！ 総合微量要素肥料 (アグリエース)

< 土壌施用が基本です！アグリエースはこんな特性 >

- ☆微量要素（マンガン、ホウ素、鉄、亜鉛、銅）を総合的に含んだ肥料です。
- ☆ク溶性ですので緩効的で過剰害の心配がありません。
- ☆年1回の施用でOKです！

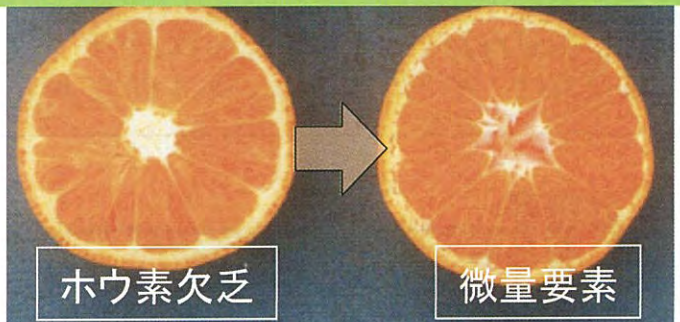
< みかんで発生しやすい微量要素欠乏症と改善 >



亜鉛欠乏

亜鉛欠乏は土壌中の亜鉛量が少ないと発生しやすく葉身部が細くなり、葉脈間に鮮明な黄白色が発生します。

アグリエースを施用すると・・・果肉の詰まったみずみずしいみかん！



ホウ素欠乏

微量要素

ホウ素欠乏は土壌中のホウ素量が少ない場合や、土壌pHが高いと発生しやすく、欠乏すると果皮が厚くなり、水分の少ないぱさぱさのみかんになります。

おいしいみかんをたくさん採るには！

おいしいみかんを作るには、深耕で根に酸素を供給したり適切な土壌水分を保つなど様々な管理が必要ですが土作りも重要な要素の1つです。土壌養分を把握し窒素を中心とした微量要素の施肥を心掛けて養分バランスのとれた施肥管理が大切です。

微量要素はみかん(葉)にどれだけ含まれているの？

葉中の養分含量

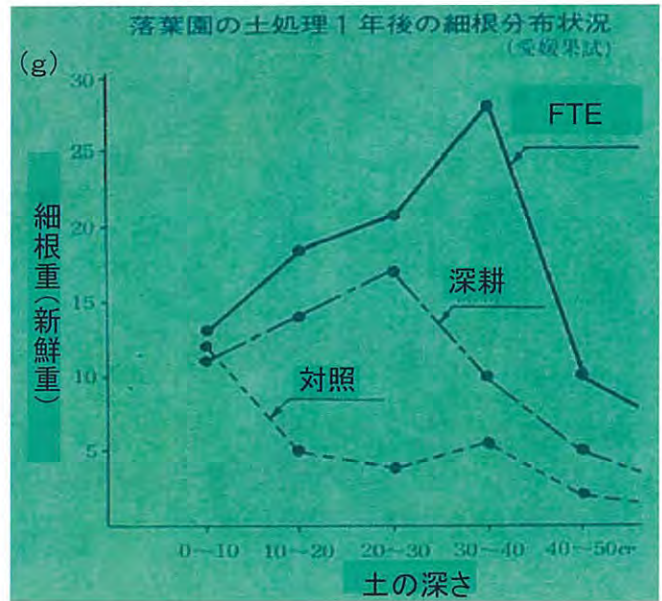
	マンガン	ホウ素	鉄	亜鉛	銅	モリブデン	窒素	石灰
	(mg/kg)						(%)	
適量範囲	50~150	50~100	60~150	50~100	10~20	0.1~2.0	2.0~2.8	2.5~4.0
欠乏限界	20~30	15~30	30~40	20~30	3~5	0.05~0.09	1.8~2.0	2.0~2.5

(数値は樹齢、季節、葉位などにより異なりますが大凡の目安です)

全ての作物には適正な養分量があります。その量が一定以下になると体のあちこちに障害が発生します。表の数値を参考に常に適度な養分濃度に保つことが必要です。

FTE(アグリエース)はこんな成果をあげています。 《根の健全化で活力UP》

右図は土処理1年後の細根の分布状況です。地下10cmでは対照区や深耕区とあまり変わりませんが、深くなるにつれFTE(微量要素肥料)区の細根量が多くなっています。根は細根が多いほど養分の吸収量が多くなります。



《アグリエースの使い方》

標準施肥量は10アールあたり4~6kgです。現在、JA []の各配合等に使用頂いております。微量要素は一年で溶けてしまいますので、施肥量を守って毎年施用して下さい。

成分内容	(%)						
製品名	保証成分		効果発現促進材		含有成分		
	マンガン	ホウ素	亜鉛	銅	銅	鉄	モリブデン
アグリエースE号	10	10	3.21	1.99	-	4	0.2
アグリエースS号	16	6	4.01	-	0.1	3	-